

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を開始いたします。

昨日、19番議員、そして、30番議員より弁論大会の話がありましたけれども、1回目に出られたということで、私も思い出せば30年前に、21回大会かなんかに出た記憶があります。私もそのときはまだ髪の毛もありました。お腹もへっこんでおりました。30年たつとこういうふうになると、公営企業も10年から20年になるとこういうふうにもいろいろ変わってきます。

今、病院問題を初め、武雄は全国から注目を受けています。注目を受けているからこそ、頑張らなきゃいけない。注目を受けている主な目安じゃないですけども、議会の視察があります。平成18年度は議会の視察、まだ合併する前ですね、旧武雄市のときは1年間で十数件の受け入れでした。ほかの自治体にも聞きましたけど、そんなもんだと、県内ですね。そんなもんだと。じゃあ、19年度からどうなのかと。19年度からは約400名から500名近い議員がこの武雄市を訪れている、県外からですね。遠くは東北地方、北海道からわざわざ来られているみたいです。それだけ注目を受けておる。

議会事務局にボードがあります。ボードが、皆さん、議員さん方はいつも見られると思うんですけど、今見られると、この議会後は——議会中は議員というのは視察できませんから、3月、6月、9月、12月は視察しませんので、その残りの間に視察します。今、事務局のボードはびっしり詰まっていますね、既に。それだけ注目を浴びていて、やっぱり頑張らなきゃいけないと思います。本当に議会事務局は、そういう来られる視察の対応、車の手配から大変だそうです。本当に車がもう足りないらしいですね。大庭部長、来年、予算のときよろしくお願いします。それぐらいやっぱり注目を受けている。それが武雄に泊まってきている、泊まっているところを優先でやっているの。それだけ注目を受けている。だから、頑張らなきゃいけないし、より一層武雄市は力を入れていかなきゃいけない、こういうふうにも思っております。

私の1つ目の質問である公営企業、公営企業といえば市民病院——は、ちょっとこっちに置いておきまして、最初に水道事業から行いたいと思います。病院問題は、先月の市長選挙において民間移譲という信を市民から得ましたので、これから総論は賛成が通りました。各論とかは、いろいろ出てくるでしょう。そういうものを後で聞きたいと思います。

まず最初に、水道事業から行いたいと思います。

夕張市の破綻から総務省における連結指標になって、公営企業が大変見直されなきゃいけないようになってきました。水道事業水道料金も、昨年値下げはされましたけれども、恒常的に原価よりも安く供給している、それがずっと続いております。これはもう何とかしなきゃいけない。これはもう執行部も重々承知のことだと思います。

いろんな方法が考えられると思います。商売の基本というのは、多く売るですよ。たくさん売る。余剰水量というのがありますから、売る物はあると。2年前、伊万里の工業団地、SUMCOの造成で工業団地側から水の確保というのを伊万里市さんは言われておりました。その当時、伊万里市に武雄の余った水を売ったらどうかということをご提案しました。樋渡市長は一生懸命努力されて、何とかそれが実現できるように頑張られましたけれども、伊万里市側がけったくって、それができなかったという経緯があり、大変残念なことなんですけれども、実際その伊万里市は自分のところの費用、県の予算、国の補助と少々あったらいいですけども、伊万里市単独で莫大な費用をかけて自己水源を開発されています。

ところが、去年の年末に軟弱地盤ということで、さらに追加の工事、20億円近い工事費がかかるというふうに聞いております。思うに、あのとき武雄の市長さんの言うことば聞いたほうがよかったて伊万里市さんは今思えばとやなかかなと思います。あのときやっとならば、何十億円も伊万里市は浮くわけですね。これから先の起債も返さなくてよくなったわけですよ。私はそういうふうに思っております。そのときがファーストチャンスでした。今度はセカンドチャンスです。

現在、佐賀西部環境組合で新ごみ処理場建設が進んでおります。今まで杵藤クリーンセンターというのがありましたけれども、さらに伊万里市とか、もっと広域になりまして、ごみ処理場が計画されています。場所は伊万里市。ただし、その場所というのは古川議員の地元である多々良のすぐそば。地図でいうと、百数十メートルしか離れていない。その多々良には、水道管のパイプ75ミリが通っています。それをちょびっと延長すれば、そこに届きます。伊万里市側の集落、今計画されているところよりもずっと向こうにあります。今、メーター3万円から4万円かかるらしいね、布設で。伊万里市側から持ってくるよりも、武雄市側から直に接続したほうが経費も少ないし、効率的ではないでしょうかと思います。

今、多々良地区に行っている第2浄水場というところがあります、水を送っているですね。第2浄水場というところは1日5,700トンの供給能力があります。その中で約3,700トンが余っている。言葉は悪いけど、捨てている分ですね、使っていないから。今度の新ごみ処理場は、私もその西部環境の委員であります。松尾初秋議員と一緒にそこに出ていますけれども、いろんなところに視察に行って、その視察の中には、その熱を利用してプールとか、いろんな親水のやつのあるところを見ていっていますので、ひょっとしたらそういうのができるやもしれません。地元の要望もそういうのが出ているらしいです。そうすると、水を使う。今現在、杵藤クリーンセンターでは、1日約270トンから300トンの水を使っています。ひょっとすると、そこをもっともっと使うかもしれない。ひょっとすると、1日500トン近く使うかもしれない。そうなった場合に、伊万里市側から接続するよりも、武雄側から接続して、もう水の単価は伊万里市さんに合わせましょうといっても千万単位のお金が入ってくると。

樋渡市長は、この西部環境組合の副管理者になられるんですよ。ぜひそういうことで武

雄市側から接続し、その水を使っていたきたいというふうに御努力できないものか。伊万里にできたけんが、伊万里の水ば使わんぎいかんということは、広域圏でしょうけん関係なかわけですね。ましていわんや伊万里市さんは、もうSUMCOのことで手いっぱい。ぜひこういうことができるように、実現するようにお願いしたいんですけども、いかがお考えでしょうか。これをまず最初の質問にしていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

おはようございます。お答えします。

公営企業としまして収支を改善していくと、日々努めるということにつきましては当然のことをごさいますして、収支を改善するためには収入を拡大するか、あるいは支出を抑えるかということが大原則になってきます。ただいまの貴重な御提案ということで、ありがとうございます。設定されたエリア、つまり武雄市のエリア外へ、そのエリアを超えまして給水をする。つまり、販路を拡大していくということにつきましては、非常にハードルとしましては高うございますけれども、ぜひ水道部としましても積極的に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁に補足をいたします。

伊万里市の名誉のために申し上げますと、SUMCOの給水の話は、私になる前の時代に既に断ったという話で、私が動いても行政の継続性の上からなかなかしんどいと。古川知事からも、伊万里市の前田副市長さんからも同じことを言われました。ですので、これに思い立っては、やはり行政というのは継続性があります。その時々の中首長の判断というのは非常に重いものを持つということですので、今回は誤りのなき判断をしたいというふうに思っております。

さすれば、先ほど牟田議員からもありましたように、これは実は経済産業省と国交省が大きなハードルになります。水利権の問題であるとか、供給権の問題であります。これは武雄市長として、あるいは今度の広域圏の副管理者として、松尾初秋議員、そして牟田議員が議会の構成メンバーになっております。一致団結して高いハードルを飛び越えるように頑張っていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひその高いハードル——その高いハードルというの、だれでも越えられるわけではありません。やっぱりいろんな人脈を持った、そういう経路を知っている市長が先頭に立って実現をしていていただきたいと思います。

広域圏でやるということ、ごみ処理場は広域圏でやる。水道事業は今、各自治体でやっております。西部水道がいろんな自治体が集まってやっておりますので、やっぱり水道事業に関しては同じ県民、佐賀県民が片方は物すごく安か、片方は高かというふうな形で持っていくというのは、やっぱり同じ県民としておかしい。国全体で見たら、いろんな形がありますがけれども、県という一つの単位の中で大きな格差があるのはおかしいと思います。

今度のそのハードルを越えるというのが将来的な、ごみ処理場が広域でできて、何で水道事業が広域でできないのか。だから、これがなかなかハードルが高いという中で、これに打ちかつことが将来的な水道事業の広域圏化になると思うんで、ぜひ——やっぱり広域圏化してやらないと、水道事業も各自治体ではきついと思います。これはほかの自治体も同じだと思います。ぜひ今度の高いハードルを市長の力で越えていていただいて、将来的な広域圏化を目指していていただきたいと思います。これについてはよかですね。（発言する者あり）答弁ありますか。では、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いわゆるピンチのときがチャンスだということだと思います。今、伊万里の供給状況を横から見ておりますと、もうSUMCOで手いっぱい。もともと上水も工水も足りないという状況下にあるときに、やはり隣人を救うのが武雄市だというふうに思っておりますので、ぜひその博愛の精神を持って、武雄は広域圏の本当に下支えになるような、あるいは広域圏の皆さんたちに喜んでいただく、そして、私ども武雄市民の皆さんたちが高く売れた水でいろんな、その収益で福祉とか子育てとか充てられるように、そういうふうな行政運営をしていかなければならないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ実現していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

続きまして、公営企業の2つ目、先ほど壇上で言いました病院関係であります。

繰り返しになりますけれども、民間移譲ということで市民の信は得られました。これも当然といえば当然のことだったと思います。市民の多くは充実した救急医療を望まれている。それに対しては官も民もない。いつから市民病院は慢性期病院に変わったんですかね。ちょっと間違いかもしれませんが、もともとスタートは急性期病院としてのスタートで

した。

平成11年の3月議会、これは高木議員の質問だったと思うんですけども、当時の古庄市長にどういう病院を目指しているのかという質問をされました。当時、古庄市長は、これは議事録をはしょって読みますけれども、市民が安心して医療を任せられる、そういう病院を目指しているわけです。ただ、市内にある病院、医院と連携をとりながら、一般の——これは民間のですね。民間の病院、診療所、あるいは医院は1次ないし1.5次を中心をお願いして、市民病院は2次医療を中心に、救急病院として365日、24時間いつでも駆けつけられる、市民が安心して生活できる、そういうことをねらって準備を進めていると。まさに今と全く同じことを答えられている。市民のニーズは変わっておりません。答弁で答えられています。

つまり、当初から市民のニーズも救急対応型病院でありました。これは宮本議員でさえもですね——言い方ごめんなさい。平成17年の12月議会で、結核病床を廃止して救急病院に特化したらどうかというふうな質問もされております。これはそのときの議事録の204ページぐらいに載っていると思います。急性期病院としての機能充実を図るほうがいいというふうに訴えられています。

例えば、救急に必要な肝心の医療、医師の確保、医師の確保は本当に佐賀大学だけに任せていいのかという声が出ていました。そういう疑問に関しては、平野議員も多分そのときの議会で、佐賀大学に任せっ放しでいいのかということを古庄市長に詰め寄られた——詰め寄っとらんですかね。（発言する者あり）3回くらい同じことを言われたような気がするんですけど。そういうふうなことで、これは今度の信というのは、議員諸氏、そして市民のニーズにこたえた結果だと思えます。

そこで、今後のことなんですけれども、今後、市民、医師会、行政、池友会による協議会を発足させたいと。これはもう本議会でも、そして新聞報道でも言われています。そこで、ちょっとお伺いなんですけれども、その中で医師会にお伺いされて、そのときに医師会のほうから、池友会に条件をつけるのは市の役目、しかし、アドバイスや要望は出せるというふうに新聞報道等と言われておりました。アドバイスはわかりますね。こうしたほうが市民のためになりますよ、いいですよ。その後には要望という言葉が出てきます。

そこで、医師会さんからの要望ということで思い出されるのが、平成11年7月14日に、当時の国立病院から市民病院に変わるときに医師会からの要望書というのが出ました。医師会から市当局に望むものという要望書が出ました。そのときのコピーを私は持っております。そのときに、これは内容はここでは言いませんけれども、いろんなことを出されています。推察するに、どういうものかというのがなかなか私は、前回と同じとは思いませんけれども、市長はもう医師会の方と話されました。今回その要望というのはどういうことが推察されるのか、それをお答えいただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に先立ちまして、私も市長選に出る前に、議事録はほとんど市民病院の関係は見ました。それは市長のときだったんですけれども、そのときに古庄前市長のおっしゃったこと、あるいは宮本栄八議員がおっしゃったこと、平野議員がおっしゃったこと、これは私たちがやっていること、やろうとしていることと一緒にしないかということを考えて、意を強くして市長選に臨んだわけであります。それはある意味、（発言する者あり）ちょっと平野議員、答弁しております。それで、私が思うのは、ただそれを金科玉条とすることは私はしたくありません。その時々ニーズで、例えば、慢性疾患の患者さんがふえていくということ、それはやっぱり紛れもない事実だと思います。

したがって、今私たちが考えなければいけないのは、そういった過去の一貫性の部分と、もう1つは市民ニーズの部分であります。そういう意味で、私は今度選挙の公約におきまして、2次医療を中心として、1次から終末期医療までバランスのとれた医療をきちんと提供するというのを、これを踏まえて今回の選挙戦を戦い抜いたと私自身はいまだに思っております。

そういった意味で、今回、医師会に年明け早々参ったときに、古賀医師会長と胸襟を開いてお話をいたしました。私は本当に感謝をしております。古賀医師会長が私に直接おっしゃったのは、一定の民意はもう得られたということで、民営化、あるいは赤字論についてはとやかく私どもが言うことではないと。それと、協議会の部分については先ほど牟田議員がおっしゃったように、要望は出していくということは確におっしゃいました。その要望の中身でありますけれども、恐らく私が推論するに、市民のためになるような要望というふうに思っております。要するに、市民福祉の維持向上ということを目的とするのは、私ども行政、医師会もこれは同じだと思います。そういった意味で前向きな要望が私どもに大所高所からいただけるものと、このように信じております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

まさに医師会も協力していただいて、市民のための要望とか、より医療福祉の向上につなげていただきたいと思いますし、8月11日より池友会と協力して救急医療は格段に向上し、市民も安心していると思います。その中でいろんな話も出てきました。選挙中、いろんな話も来ました。外科は強いけど、内科は弱いんでないかとか、そういうふうな話も聞いています。しかし、これはまた市民ニーズを受けて、さきの議会答弁では内科医も2人ふやすんではないかということで、市民ニーズを上手にとらえられていると。ぜひ今度の協議会でも市

民ニーズを十分とらえていただいて、それを医療に反映していただきたい。先ほど言いました医師会と協力してやっていただきたい。例えば、市民ニーズの中で小児医療も出てくるかもしれません。そういうときは地元医師会とか、いろんな医療と協力してやっていただきたいと思います。これを要望として、次の質問に移ります。

大きな項目の2点目は、教育であります。教育は、種々いろんなことを聞いてまいっております。教育に関して、今議会でも上野議員、そして山口裕子議員が質問され、食育とか出ておりました。私もそれに似たような形で、給食であります。

私も小学校に通っている娘がいるんですけど、給食に関しては、きょう何やったとか、反対に娘から、きょうは何々やったよというのを聞いたり、あと、例えばこの議会とか委員会が出るのは、給食といえば給食費の未払い問題とか、そういう程度にしか考えていなかったんですね。とあるきっかけで給食費の食材費を知りました。今まで、できたものしか考えていなかった。そして、集金率とか、そういうふうなことしか考えていなかったんですけども、食材費ということをちょっと聞いて、やっぱり愕然としたんですね。

というのは、給食は1食当たり220円で今つくられている。ここ数年、ずっとその価格で維持されてきている。ところが、去年から食材が高騰しているらしいですね。私、それを聞いてびっくりしました。平成19年、今21年ですけど、20年の比較でいうと、御飯、米飯は1食当たり1円、これは大したことないかもしれませんが。パンは1.5円の値上がり、牛乳も1円の値上がり。これは1円、2円単位ですから、そんなにないでしょうけれども、例えば、タマネギがキロ100円だったのが120円で仕入れなきゃいけない。ニンジンがキロ180円が今250円になっておる。ジャガイモ、100円が200円になっておる。チンゲンサイ、この前話が出ましたね。チンゲンサイに関しても、キロ400円が450円になっている。キュウリ、これは山口議員が得意とするところなんですけれども、キロ400円が今450円から600円になっておる。また油、この脂じゃないです、食用油です。一斗缶3,750円が4,980円になっている。卵も——卵というのは今まで値上げが余りなかったらしいですね。その卵も260円から1割以上上がっている。チーズも1,000円から1,650円、みそも280円から350円、キロですね。しょうゆも460円から500円、すごい値上がりしているんですね。

これはもう栄養士さんは大変ですよ。献立を決める、カロリー計算もしなきゃいけない、栄養配分もしなきゃいけない。しかし、味も子どもたちが食べやすいのになきゃいけない。でも、仕入れ単価は上がっていると。これは大変だと思います。ちなみに、1食当たりのパンと御飯の価格差、パンは1個40円ぐらいらしいです。御飯は1食1人当たり52円。パンのほうが12円安いんですね。先日の議会答弁でも、米飯を今度ふやすというふうにおっしゃってました。週3対2の割合を4対1の割合にするというふうに。それでもちょっと値上げになります。これはもう220円で本当にできるのか。栄養士さんとか、そういう献立でも限界ではないのかと思います。その点に関してはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御指摘のとおり、給食の原材料につきましては高騰いたしております、現場では大変困っているという声が教育委員会のほうにも届いております。年度途中におきましても、値上げをお願いしたいというような声も現場から上がっているところですが、現在のところでは、栄養士さんを初めとして現場で工夫をしていただいて、例えば、これまで牛肉を使っていたものを豚肉にかえるとか、もやしをふやすとか、そういった工夫をしていただいて、現在のところ乗り切っているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

大変だと思います。やっぱり子どもの口に合うようにもしなきゃいけない。それで、カロリーも必要なカロリーをとらなきゃいけない。例えば、昔、プッチンプリンをプチッと落として、上のカラメルのところをぽっととって——私の学生時代ですね。プリンにおしょうゆをかけると、目をつぶって御飯の上に載せるとウニの味がすると。そういうのはできない——まあ、今のはちょっと冗談ですけども、実際そういうふうにウニの味がするんですけど、そういうごまかしじゃないですけども、ごまかしはできないと思います。きちっとしたカロリー計算をしてやらなきゃいけない。

だから、やっぱり最後に影響を受けるのは子どもだと思います。生徒。だから、何とかしなきゃいけないと思います。ひょっとすると値上げという方向に進むかもしれませんが、ぜひ適正な値上げをしていただきたいし、もう1点、ちょっとこれは市長から、この後、話を聞きたいと思うんですけども、ひとつ提案なんですけれども、山口裕子議員が地産地消という言葉をよく使われています。給食費も上がると。そういう中で、地元の米の寄附制度をつくったらどうでしょうか。

例えば、うちは何人家族だけど、何俵つくって、二、三俵ぐらいぎ小学校に寄附してよかばいとか、そういうふうに寄附制度を——うちもそうですよね。うちも何人家族で田んぼをやっておりますので、10俵か十何俵来んですけども、1家族で食べられないんですよ。だから、そういうのを寄附制度でやると。例えば、ことしの9月の新米は何俵寄附しますよというふうな寄附制度をきちっとすれば、地元の米をやることができると。そういう制度をつくれれば、値上げもひょっとすると最小限で抑えられるかもしれない。

米というのはやっぱり地元の土で、地元の水で育った米です。そういうのを食べてほしいというじいちゃん、ばあちゃんの願いで、ひょっとするといっぱい集まるかもしれない。各小学校区、中学校区単位でそれを実施すれば、ある程度米が集まるかもしれない。それを食

材に充てる。そしたら値上げも、それは安全面とかいろいろ言うことはあるでしょう。そういうふうなので、できるだけ値上げするにも最小限でやるとか、いろんな方式が考えられると思います。一つは私の今試算みたいな形で言いましたけれども、そういうふうないろんなアイデアというものを考えていかなきゃいけないと思いますけれども、市長の御意見をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にいい案をいただきました。米百俵の精神ということで、すなわち子どもたちに一番今負荷がかかっておりますので、そういった意味で地域の真心、大人の真心、農業経営者の真心がそこに結集すると、多分子どもたちの教育効果にとっても非常にいいだろうというふうに思っておりますので、寄附制度は創設します。その上で、そんなに私は集まると思わないですね。もう農業経営者の皆さんたちもきゅうきゅうとされておりますので、できればこれを全市にするのか、学校別にするかというのは今後検討させていただきたいと思えます。

その上で、私は寄附の日というのを——仮称ですけれども——した上で、子どもたちにそれをわからせるということも必要だというふうに思っています。要するに、いただいてもそれがずっと恒常的になっていくと、そのありがたさというのがわからないわけですよ。だから、これはどこどこのおじいちゃんからいただいた米ですということも含めて、これはもうひょっとすると量によってはクラス別になるかもしれません。それはわかりません。ですので、そういうふうきちんと寄附の、これはアメリカはそうですけれども、だれそれからこういう寄附をいただいたということをやちゃんとわかるようにするということが必要なんではないかなというふうに思っております。

これに加えてもう1つ、ちょっと私がつけ加えたいのは牛乳です。やはり米には牛乳は合わない。きのうやってみましたけど、やっぱり合わないということで、これは教育委員会は頑張っていますけど、文科省が首を縦に振らないらしいんですね、教育長。——教育長も首を縦に振っています。だから、そういう古い、何というんですか、押しつけるようなことは文部科学省もやめていただきたい。私が思うのは、カルシウムが必要だということであれば、ほかにふりかけとか、そういったことで対処できると思うんですよ。そうすると、先ほどお話があったように、やっぱり食材の高騰が続いていて、例えば、牛乳を買わないで済むといったら、その分だけ値を下げられるわけですよ。だから、そういうふうに、これは文部科学省にきちんと教育長と私で言うておこうと思っています。

そういうことで、ぜひそういった意味から、保護者の皆さんの負担も抑えるように努力をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

食育の大事さが言われておりまして、きのう、いじめとか不登校とか、問題行動等々の話もあったわけですが、最終的には心をつかむといいますけれども、胃袋をつかむという言葉のほうが具体的にはやりやすいのかなと時々思うことがございます。だれがどのように、何で胃袋を満たしているんだろうかと。そういう意味で食育の大事さを痛感しているわけですが、食をより身近に感じるとか、地元の農業が見えるということは非常に大事だろうというふうに思っております。

来年度、試行として若木小学校で自校での米飯炊飯ができないかということを考えております。これは小規模校をマイナス面で語ることが多いわけですが、プラスにとらえたら炊飯が簡単にできるという、そういうメリットがあるんじゃないか。そういう可能性を探ってみたいというふうに思っております。

そういう面で、より身近に食を感じ学ぶことのできる給食も含めて、そういうことを求めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうですね、牛乳と御飯は合わんですね。今気づきました。我々のときは全部パンばかりだったんで、牛乳が当たり前という、そういうふうなイメージがあったんで、ちょっと気づきませんでした。ぜひそういうところも、いろんな酪農業者の育成とか、そういうのもあるかもしれませんけれども、ぜひ教育長、市長、陳情を頑張ってください。

では、給食の件に関しては、以上で終わりたいと思います。

教育の2点目、これは今、不況といいながらも頑張っている部分、希望を与えるスポーツですね、やっぱり。市内の子どもからお年寄りまで一生懸命頑張られています。スポーツが盛んです。各議員からの一般質問で出るのは、やっぱりスポーツ施設を何とかしてほしいという声が多々出ています。野球場しかり、体育館しかり、いろんな声が出ております。

そういう中で、これは今お願いしますということじゃないです。例えば、隣の鹿島市、蟻尾山公園運動場ですか、あそこは市内の真ん中じゃないですよ。車でちょっと行って、外れたところに広大な敷地と整った施設がある。利用状況も物すごく多いと。平成16年だったですか、16年か17年、議会で視察に行ったのは、合併した今、薩摩川内市に行きました。そこもスポーツ施設を見に行ったんですけども、まちの真ん中に全くないんですね。真ん中ということは中心街ということです。中心街に全くない。スポーツ施設を見に行ったと。車で20分ぐらい。場所という、若木町ぐらい離れたところですかね。山のカーブを一つ抜ける

と、広大なスポーツ場があるわけですね。びっくりしました。プロ野球が来れるようにということで、そういうふうな施設もつくってありますし、サッカー場もつくってあります。そしたら、きのうテレビを見ていたら、今、ホークスのキャンプ場になっているみたいですね。今行っているみたいです。

それは何でできたのかと。まちの中では地価が高過ぎて、新しく建てかえることはできん。やっぱりそこを売却して、その売却した予算でつくったと。やっぱりですね、今とは言いません。今、白岩体育館、約10万平米ぐらいあると思います。白岩体育館、白岩運動場、体育館ももうそろそろ使えなくなるかもしれない。野球場施設も将来的に狭くなると思ってやらなきゃいけない。そういうときにあそこの土地を担保に、ちょっと離れたところ、例えば、武内の議員には申しわけないんですけども、赤穂山を一つ通り過ぎれば、地価はもう何十分の1になって——ですよ、多分。物すごいものができると思うんですよ。だから、そういう計画を、今とは言いません。今不況ですから、高値で売れないと思いますので、来るべき、今、うし年です。一步ずつ確実に踏み固めていかなきゃいけないときですので、そういう計画を頭の隅に置いて、将来のスポーツ施設計画を考えられないものかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

来年度、具体開催に関して、施設についてもいろんな御意見をお聞きしたところでございます。また、近場の白岩で近隣の子どもたちが集まってスポーツしているというような状況もあるわけですが、ただいまいただきました提案は非常に貴重な提案で、今後また検討していく案に加えていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ、できるできないは別として、そういう考え方もあるということで、さっき言いましたうし年で、まだ不況ですので、今、地固めをして一步一步進んでいるときですので、計画だけは考えていていただきたいと思います。いずれスポーツ施設も今のスポーツ施設じゃ足りなくなるし、老朽化になっていくのでやらなきゃいけない。そういうときに向かって計画を進めていていただきたいと思います。

では、質問の大きな3点目、農業問題。イノシシ問題が多々この議会でも出ました。昨日の最後の19番議員もイノシシ問題が出ました。イノシシ注意という看板があるのは若木町でございませう。車がぶつかる。イノシシは保険に入っとらさんけんが、修理代をもらえない。武雄市内に何万頭でしたっけ、推定何万頭いるというふうなこともおっしゃっていました。

平成18年ぐらいやったですかね、当時の蒲地議員はゆめタウンの中にイノシシが入ってきたと。ひょっとすると、もうゆめタウンどころか、いろんなところも入ってくるかもしれない。それぐらいイノシシというのは被害を及ぼしている。我々周辺地域に住んでいる人間だけではなく、中心の武雄のゆめタウンにさえイノシシが出ている。

イノシシも、2メートルぐらいぴよんと越えることができると。助走なしでも1メートル飛ぶらしいんですね。飛べないですね、我々人間、1メートル。助走つけたら2メートル飛べるらしいです。スピードは、イノシシの最高速度は48キロとか50キロで走るらしいです。猪突猛進ということで言われますけれども、真っすぐしか走らないというのは、あれは大うそらしいですね。前のひづめで方向転換自由自在らしいです。だから危ないんですね。

今のところ、イノシシの人的被害が出ていないので、人的被害というのは車の事故、それぐらい——それぐらいと言っちゃいけませんけれども、出ていないので、例えば、うちのよう中山間地を歩いて帰る子どもたちがいる。万一のことがあって、よけてもばんと来る。だから、イノシシ問題というのは本当大問題です。そして、農業意欲、せっかく育てた農作物も荒らされる。意欲が失われる。そして、がけ崩れですね。やっぱり穴を掘ります。いろんなところで被害がある。若木町だけではありません。武内町、いろんなところ。山崎議員の地元の橘町でも困っていらっしやると思います。

やっぱりそういうふうな中、イノシシ対策は何とかなきゃいけない。イノシシの寿命は10歳から15歳らしいですね。大体15歳ぐらいです。飼っていて20年生きた例というのはあるらしいですけれども、15年。イノシシは15年ぐらい生きると。その中で、1歳で妊娠可能だそうです。生まれて1歳で妊娠可能。2歳でもう出産らしいです。それが15年間続くと。イノシシ対策、牧さく、電牧、いろんなことがあります。でも、あと狩猟で5,000頭とっていると。でも、さっき言った生まれた数、1匹、イノブタですから何匹、10匹とは言いませぬけれども、多く出産すると。とても追いつかないと。

例えば、ふえ過ぎた動物、虫が減る原因というのは、例えば、何かがふえ過ぎたというのは食料不足ですよ。余り多くなり過ぎて食料がなくなって、それが自滅して少なくなる。ところが、イノシシは今現在人間がつくっている分があるし、里にどんどんおりてきたらいっぱい食べ物がある。だから、イノシシがふえても、自滅ということにはなかなかつながらない。狩猟にも限界がある。電牧で守るだけ。自己防衛。守っても結局、数は減らないわけですね。だから、イノシシの数がふえて、蛇口からどんどん出てくる。

よく市長が、蛇口のほうを閉めなきゃいけないという言葉が使われます。やっぱり蛇口ば閉めんぎいかんですよね。ふえる数。とるのもいいです。だけど、もし可能ならば、まきえ——毒えさじゃないです。私が言うのは避妊薬、動物用の避妊薬が入ったまきえができないものか。イノシシに注意することの一つは、人間の生活雑排を捨てている、そこをいつも食べに来るわけです。そこで、それと同じで避妊薬というまきえをしたら、少なくとも蛇

口を閉めることができるんじゃないか。毒やっぎ、これはいろいろ問題があると思います。だから、まきえという形で避妊ということであると、予算的にもそんなにかからないじゃないかと思います。

電牧とかいろいろ、田畑を守る方法はあると思うけど、結局、その蛇口を閉めないことには同じだと思います。だから、その蛇口を閉めるのは、狩猟とかそういうのがありますけれども、やっぱり狩猟でもなかなか追いつかない。だから、その蛇口を閉めるために、避妊薬が入ったまきえをして、その蛇口を少しずつ閉めるというのも一つの方法だと思いますけれども、いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

非常にいい提案だと思います。ただ、薬物、結局避妊薬となりますと、ほかの動物等に対する自然保護の問題等もござりまするので、これについては当然国の許可、認可等も必要となってまいりますので、今後とも検討はしてみたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にいい案をいただいたとっております。ただ、ちょっとここで問題になるのは、今度加工場をつくります。食肉加工場をつくったときに、避妊薬を投与されたイノシシというのは食用に回せないということが環境省の方針に出ているんですね。ですので、非常にここはジレンマなんですね。私は前、催眠薬がどうだとか、睡眠薬がどうだと申しました。それよりは避妊薬のほうがいいなときょう思ったんですけど、いずれにしても、薬を使うということは環境大臣の認可が必要であるのと同時に、もう1つ、武雄が今度これを特産品にしていこうといったときに、その整合性については、またイノシシ会議でちょっと協議をしていきたいというふうに思っております。

いずれにしても、非常にいい案を、卓抜した案をいただいたということについては感謝をいたしたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番 牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

一つの案です。やっぱり蛇口を閉めなきゃいけない。それともう1つ、電牧とかなんか、結局お金がかかるんですね、もう補助もなくなりますし。ネットでちょっといろいろ調べてみました。ネットで調べると、こういうのがあったんですね。イノシシの天敵、オオカミだ

そうです。オオカミの尿が売られているわけですね。オオカミの尿を田畑のそばにかけると、イノシシは物すごく鼻がいいらしいですね。青色色弱らしいです——それはちょっと関係ないですけど、鼻がいいと。だから、オオカミの尿とか、そういう肉食猛獣の尿がだめだと。そういうときに、この辺動物園あるでしょう、福岡とか。そういうところから尿だけくんさいというてですね、安かと思うですよ、そっちのほうが。ライオンとかトラとかですね、日本はオオカミはいないので、犬しか——犬はちょっと弱いらしいですね。やっぱりそういう野生の——動物園は野生じゃないですね。そういうふうな尿をするのも、多分動物園とかなんかは捨てるだけだと思うですもんね。そういうのをとって畑にぴぴっとまけば捕獲できると。

それは私、今幾らか例を挙げました。避妊薬とか尿とか、ぜひそういうふうな農家にも余り負担がかからない方法をさらに考えていただきたいと思いますけれども、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりこれこそが議会質問だと思いますね。本当にうちもお金がない。しかし、知恵と工夫と努力で何とかしていこうということに、非常に私は感銘を受けております。オオカミの尿がどれぐらいのおいがるかわかりませんが、ちょっと今、議員の御質問で考えておったのがレモングラスであります。レモングラスの中のシトラールという成分は、イノシシが最も嫌いな成分なんですね。においなんですね。したがって、今ちょっと考えたのは、シトラールをオイルとして、あるいは蒸留水として抽出することはもうできますので、それを試験的に田畑のところに、これは多分、それだけでは多分無理で、何か組み合わせなきゃいけないと思います。電牧とか、いろんな組み合わせをしなければいけないと思いますけれども、ちょっと試験的にやってみようというふうに思っています。レモングラスの畑だけはイノシシは来ません。そういうことで、それを成分として抽出して、それを土にまくとか、ちょっとことしは試験的にやってみたいなというふうに思っております。その試験結果等については、また議会で報告をさせていただきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

25番 牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

何か新しいビジネスチャンスがまたふえるわけで、それで大成功すれば、これはまた全国的に売れると思います。イノシシ対策ということでインターネットで検索すれば、数十万件出てきます。それも各自治体が全部出しているわけです。それぐらい困っている。やっぱりそういう一つのビジネスチャンスじゃないですけども、できるだけローコストで農家に負

担なくやっていただきたいと思います。

あと、イノシシに関しては19番議員が質問されたとおりでございます。

では、農業に関しての2番目、本日の質問の最後です。この議会にも農業のスペシャリストは多々いらっしゃいます。普通に考えるに、おてんとうさん、太陽、土、そして空気、そして水、人力、これによっていろんな自然の恵みが人間に対していただけるものと思っています。

その中で一番重要な——一番ということはないですけども、非常に重要な水ですね。水利の問題があります。川は今、いろんな改修がなされ、昔、堰をつくって、そこから水を取水して農業に使っていた。田畑に回す、そういうことが行われておりましたけれども、20年、30年前、その河川の改修があって、そして、その中で堰の改良も行われました。そういう中で、今、堰の改良、水をためる堰が徐々に農家の負担になってきております。例えば、私の地元松浦川、転倒堰があります。転倒堰の中で、この前ちょっと壊れました。修理代1,500万円であります。維持管理費として、それが一番最初できたとき、数週間、100万円か200万円お金をいただきました。1,500万円修理費でかかると。これはここだけではありません。武雄市内で55カ所あります、そういう堰が。ただ、これですぐやらなきゃいけないというのは、多分3分の1——3分の1もないとは思いますが、そういう中で、農家の戸数は減っている。例えば、うちの地区でいうと、数十戸も満たないところで1,500万円。これを全部改修すると、数千万円の費用がかかります。それでは農業の意欲は失われます。物すごい負担になるわけですね。

そういう中で、今55カ所、将来的には必ずやり直さなきゃいけない。それも地元負担になっております。これが市でやってくれとは言わないです。今度の質問は、ぜひ今度の国の経済出動、そしていろんな対策の中にこういうふうな農業の水を守る、地域ではできない、そういう要望を市からぜひ出していただきたいという質問であります。数十戸で1,500万円、更新すれば数千万円、それが1キロごとにある。その地区、その地区、その地区が何千万円も出さなきゃいけない。無理であります。ぜひこの危機を国、県に市として伝えていただきたいというお願いの質問であります。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

選挙戦のときに、これは私もやらなきゃいけないなど。大分、堰が傷んでおるのを私もいろんなところで拝見をしました。そのときに農業経営者の方とお話をしたときに、牟田議員がおっしゃることと同じことをおっしゃいました。したいんだけど、やっぱり手元にもうお金がないんですということを言われましたので、これについては重く受けとめて、私も議会が終わったときに、そのほか幾つか重点の項目があります。その中の一つに加えたいという

ふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

よろしく申し上げます。質問を終わります。